



# 京都 YWCA

# 11 2022



古都に咲いて100年

## 国家を超えて守られるべきもの ― 「良心の自由」をもとめて

～「徐兄弟救援活動」と「良心的兵役拒否」について西村裕美さんから聴く～

京都 YWCA は 2023 年に創立 100 周年を迎えるにあたり記念誌発行の準備を進めているが、その過程で、韓国政治犯として捕らえられた在日兄弟の救援活動を 22 年にわたって続けていたことを知った。9 月 9 日、その活動に積極的に関わり、今年 4 月には良心的兵役拒否に関する著書を出された京都 YWCA 元職員の西村（旧姓小西）裕美さんからお話を聴くことができた。

### 「京都 YWCA 徐君兄弟を守る会」について

朴正熙（パク・チョンヒ）政権下の 1971 年 4 月に、ソウル大学に留学していた京都出身の徐兄弟を含む 51 名が逮捕され、反共法と国家保安法の違反容疑で兄の徐勝（ソ・スン）さんに死刑、弟の徐俊植（ソ・ジュンシク）さんに懲役 15 年の刑が下された。「命の大切さ」を強調点にあげていた京都 YWCA は、救う会結成への呼びかけに応じて兄弟を守る運動を進めることを決め、救援会に参加した。

京都 YWCA の救援活動参加者の動機はさまざまだが、スパイ容疑という不確実な理由で有為な青年の命が不当に扱われることを見通してはならないという思いがあった。活動は嘆願書、ハガキ、電報、署名、教会や他団体への働きかけ、差入れ、職員の訪韓・面会、朝鮮史の勉強などさまざまな形で、地道に持続的に行われた。

非転向（反共の拒否）を貫き通し、俊植さんは 1988 年、勝さんは 1990 年に釈放され、守る会は 1993 年に活動を終えた。面会で徐勝氏は、支援に感謝しつつ、在日への差別、独裁政権を支持する日本政府を許容する日本人への批判、統一された誇るべき祖国をもつことへの希求を語った。

京都 YWCA は救援活動を通して、36 年間の朝鮮植民地支配の加害の大きさを知ると同時に、拷問に耐え自らの良心を買った徐兄弟の生き方に感銘を受け、民衆レベルのつながりの大切さも学んだ。救援参加者は日本人としての自らの歴史観の問い直しを迫られ、西村さん自身も多くの学びを得て、その後の生き方に強い影響を受けたと語られた。

### 「良心的兵役拒否」がもつ今日的意味

西村さんが『灯火とともに闇のなかを ― 二つの世界大戦にみる英米の良心的兵役拒否者』を執筆された動機は、兵役拒否に関する個人的な体験を記す書物はあるが、その制度の全体像を示すものがないこと、また、国家総動員法の下に兵役拒否の余地がなかった日本と英米との違いは何かを探ることであった。

本書はプロテスタントの一宗派であるクェイカーのパシフィズム（平和主義）に発するこの運動を、英国と米国、さらに第一次と第二次の大戦を視野に入れて紹介している。第一次世界大戦時に英国政府は徴兵制を導入しようとして兵役法案を提出したが、クェイカー教徒の議員たちから強い反対を受け、法案を通すため聖書の「殺すな」に基づく「良心条項」を加えて法案を通過させた。当初はキリスト教徒だけを対象としたが、後に無神論者や社会主義者にも「人を殺さなくてもよい自由」を国家が認めることになった。このような少数者の人権尊重の動きは米国へと広がり、後のベトナム反戦運動や公民権運動にもつながった。

良心的兵役拒否の制度は「良心の自由」を守り抜こうとする人々の強い気持ちによって勝ち取られた。良心の自由の問題は徐兄弟事件にも通じている。ロシアのウクライナ侵攻により意に反して戦争に送り込まれる人々がいる現在、極めて今日的なテーマである。良心の自由は国家の論理を超えて守られるべき人権であり、私たちはそれを守る努力を続けていかなければならないと感じた。（上村兪巳子）



西村裕美さんのお話を聴く会（9月9日）

## 子どもの居場所プログラム「ガジュマルの樹」夏のダイアウト

夏休みも終盤の8月19日朝、期待と不安の入り交じった表情の子どもたちが集まってきました。コロナ禍で3年ぶりの「ガジュマルの樹」、開催です。

親・子育て支援活動委員会では長期休みに合わせ、小学生を対象にデイキャンプをしています。この日は、多文化ルーツの子どもたちを含む1年生から6年生の小学生9名、講師の先生とのお子さん、ボランティアのリーダー2名、親子ライブラリーのメンバー、委員と総勢20名の参加でした。

最初に大切なお約束として「人を傷つけないこと」を共有し、自己紹介やゲームで互いを知った後は、海がテーマの絵本タイム。イメージを膨らませたところで、ミニホールを埋め尽くすじゃばら段ボールの登場、「ビッグアート」の時間です。

絵の具を筆や手足で塗ったり、色紙、シールを貼ったりして画面いっぱいに海を描きます。初めは思い思いに描いていた子どもたちも、「人魚のキラキラ手伝って!」「難破した船から宝物が落ちることにしようよ」と仲良く相談しながら、2時間後にはガジュマルオリジナルの心躍る「海」ができあがっていました。ロビーで展示されていた作品をご覧になった方もいらっしやるかもしれません。

午後はお待ちかね、「不思議がいっぱい科学実験」の時間です。身近な材料で工作を楽しみつつ科学の楽しさを学ぶプログラム。

空気砲からとびだす煙に大興奮。ホバークラフトを床に走らせ大はしゃぎ! 無我夢中で楽しむ子どもたちを、大人たちが指をくわえて見ていたのは内緒です。

夕方、名残惜しい気持ちを抱えながら解散。お迎いの保護者の方々に、楽しかった報告のおしゃべりが止まらない子どもたち。笑顔に癒やされ、一緒に楽しみ、心地よい疲れと共に帰途についた大人たちでした。

(赤尾陽子)



「さあ、こい!」巨大空気砲を待ち構える子どもたち

### 親・子育て支援活動委員会の冬の予定

- 12/10 (土) 子育ておはなし会 @うららかふえ 13:00~14:30
- 12/27 (火) 「ガジュマルの樹」冬のダイアウト 9:30~16:30

## ミニバザー開催!

地球にやさしい人ともをつなぐプチマルシェ@京都 YWCA

10月15日、「プチマルシェ」として約3年ぶりのミニバザーが開催されました。恒例のリサイクル衣料などのほかに、有機野菜や手作りパン、作業所のクッキーやお菓子、就労支援事業所の手作り小物、きものリフォーム作品など、京都YWCAとつながる人や団体が出店しました。京都YWCAの多文化共生委員会も活動紹介ブースを出しました。人々が自然にSDGsとつながるマルシェとなりました。

長引くコロナ禍で、心身ともに疲れ気味の方からも「久しぶりで楽しかった」「思い切って来たら懐かしい人に会えた」という嬉しい声が聞こえました。



プチマルシェの様子

## 京都YWCA100周年記念エコバッグ販売中!

ヴォーリス建築である「サマリア館」の設計図をデザインに用い、繊細な手描きのラインを活かした京都YWCAでしか手に入らないオリジナルバッグです。

現物展示、販売は京都YWCA本館1階で行っています。100枚限定、お買い求めはお早めに!!



- ★素材: コットン (12オンス)
- ★サイズ: 横360×縦370×奥行110mm
- ★容量: 10L
- ※A4サイズの書類だけでなく、マチがあるので水筒などもすっぽりと入ります。
- ★色 (2種): ワインレッド、ロイヤルブルー
- ★価格: 1,800円 (税込)

## 京都 YWCA の 20 世紀から 21 世紀への 15 年 ～ 1998 年から 2021 年の事業・活動を振り返って～



10月8日、京都YWCAの90周年記念誌に沿って1998年から2012年を振り返る第4回「京都YWCA100年の歴史を知る会」が開催されました。オンラインの参加者と共に、サラームの入居者や懐かしい面々を含め24名が集まりました。弘中奈都子さんの進行のもと、パワーポイントによるこの15年の振り返りと、小グループの対話の時間の2部構成で、この時代の懐かしい話に花が咲きました。

グループディスカッションの中で、この時代の特徴的なキーワードが挙げられました。一つ目のキーワードは、キリスト教基盤を軸にした「平和に関する活動」の萌芽期であったということです。ヨハン・ガルトゥングさんの構造的暴力の理論の勉強会から、平和に関する会員活動が始まり、9.11を契機としたアフガニスタン侵攻の犠牲者へ「祈り」をささげる会からピースウォークが発生したことなど、現在の京都YWCAのさまざまな平和活動の基礎がここにあったことが話し合われました。

もう一つは「会員活動から事業への変遷」です。リーマンショック時代の社会情勢から、寄付金やバザー売上額の大幅な減少、英会話等クラス事業、会館事業の低迷もあり、

屋台骨を支える新しい事業を考えるべく、さまざまな「事業化」への方策が検討された時代であったことが印象的でした。

また、この時代に「シリーズ——子どもが楽しみ、親が育つひととき」の中の「親と子のリズムあそび」と「絵本の講座」により新たな会員が増えました。それが、現在行っている「女性と子どもエンパワメント」に関する事業としての親子ライブラリーの活動や保育園事業へとつながっていることも話され、今にしっかりとつながっていることを深く感じる時間となりました。

(齋藤佳津子)



懐かしいあの頃に思いをはせて



### シリーズ——京都YWCA100年の歩み(11)

## 居場所としてのカフェ、若者就労支援の場への展開



2009年10月から第1、第3土曜日のスリフトセール(リサイクル市)に合わせ、手作りのお菓子を出すカフェを開いた。2012年、地域の子どもからお年寄りまで「食」を中心にしてうらかな気持ちでくつろげる場となるように「うららかふえ」と命名され、ランチの提供も始めた。

2013年に国土交通省の「高齢者・障害者・子育て世帯居住安定化推進事業<先導的的事业>」に採択されたことにより、1936年に建てられたサマリア館1階の3室をカフェに改装し、運営体制の検討を経てふれあいの居場所食堂「うららかふえ」を2014年9月9日に開業した。

会員を中心としたかふえボランティアの多くが食品衛生責任者の資格を取り、日替わりで安心・安全なメニュー作りから食材調達、調理、後片付けまでを担当している。また、活動の理念に賛同する個人・団体への委託や、会員の委員会活動の一つとして担当する日もあり、試行錯誤しながら火曜日から土曜日の週5日のランチ提供と午前11時から午後4時までの営業を継続している。

会館にお住まいの高齢者・留学生とともに、職員・会員や地域の方など多世代で多様な背景を持つ人々に利用され、かふえで協働するボランティア自身にとっても、「食」

を通じた「ふれあいの居場所」となっている。また、「絵本かふえ」「いきいきタイム(体操教室)」「ちくちくかふえ(手仕事の集まり)」「Chatting Café(多文化カフェ)など、さまざまな「居場所づくり」に取り組んでいる。

2016年からは「生き方探求・チャレンジ体験受け入れ事業所」として市内の中学生を受け入れ、「京都府若者就職支援事業所」の役割も加わり、主に自立援助ホーム「カルーナ」の入所者・退所者などの若者と協働しながら活動を続けている。

2022年度からは、生きづらさを抱えた若者や家族などが気軽に集え、ほっこりとした時間が過ごせる場として「YここKitchen」を開業している。

(河野伴子)



若者と家族の居場所「YここKitchen」

## 今後のプログラム

## ◎あきまつり

毎年恒例、子どももおとなも楽しめるプログラムが満載です！  
詳細は京都YWCAHP、チラシをご覧ください。  
お待ちしております。

■日 時：2022年11月6日(日)

13:00開場 13:30～16:30まで

■料 金：親子(おとな1・こども1)1,000円

こども1人500円、おとな1人700円

1歳未満は無料



## ◎「ピーター・バラカンDJライブin京都 #11」のお知らせ

3年ぶりにピーター・バラカンさんをお招きします。  
今回のタイトルは「女性たちへの応援歌」。ご期待ください！

■日 時：2022年12月3日(土)

14:00～16:00(開場 13:30)

■場 所：日本聖公会聖アグネス教会(京都市上京区烏丸下立売角)

■チケット：2,500円(一般・大学生)、1,500円(中高生・障がい者)

詳しくは事務所までお問合せください。

サマリア館補修クラウドファンディングが  
第1次目標(150万円)を達成できました！

実施期間：2022年7月1日～10月1日

達成額：1,549,000円 支援者数：117名

多くの皆さまのご協力に心より感謝申し上げます。  
サマリア館全面補修には500万円以上の費用が必要となります。  
引き続き応援をよろしくお願いいたします。

\*ご寄付者名(順不同・敬称略)

河野伴子、長瀬正子、俣野尚子、御前明美、日向幸太郎、上田理恵子、  
竹田明子、山形政昭、伊原千晶、下村泰子、今井誠人、今井貴美江、  
森岡正和、平野晴美、坪野えり子、田所久美子、宮本美歌、田中愛子、  
青木理恵子、赤尾陽子、三縄久代、柴田恵子、皆川典子、上田那由多、  
小柴啓子、二代目山本、津戸眞弓、中野加奈子、山本知恵子、入江潤、  
マーサ・メンセンディーク、藤原玲子、松田健二、続木泰子、  
山上義人、別所加恵、岸亜希子、上村剛士、伊藤久仁俊、中畑てるみ、  
井上富子、安藤正樹、酒井弘美、高橋美子、塚本宏子、上村達郎、  
濱頭直子、関原眞樹子、西川陽子、浅野献一、暦本純一、井上康子、  
一色吉次、川勝泰介、白川啓子、小村妙子、有田孝子、神内千晶、  
筒井奈都子、馬場京子、岡昭男、村松通子、美馬マキ、荒谷出、  
高橋俊一、高幣喜文、篠田茜、内貴陽子、曾川誉章、奥村和恵、  
奥村孝、弘中奈都子、中村美智子、大賀佐代子、岡佑里子、  
平城智恵子、平野裕之、堀部碧、吉田麻希、上村愈巳子、山上有紀、  
吉田亜希、平野富希、井上依子、松村美代、小林茂昌、富澤善美、  
小笠原まり子、谷真澄、西村裕美、土屋健弘、調子恵美子、藤井啓子、  
杉本恵子、匿名 23名

## ご協力ありがとうございました

2022年8月1日から9月31日 寄付者一覧(敬称略、順不同)

## 各指定寄付

## \*法人支援

西村佐記子

## \*100周年記念募金

打田絹子、祇園直美、祇園テル子、齋藤大輔、西村裕美、齋藤佳津子、  
上羽都子、上田理恵子、小澤恵、三木みや子  
※クラウドファンディングは別途掲載

## \*親・子育て支援活動委員会

京都家庭文庫地域文庫連絡会

## \*ふれあいの「居場所」事業部活動委員会

神門佐千子、平野富希、河野伴子



## \*APT(多言語電話相談)

神門佐千子、田中順子、北垣由民子、北村保子、林律、大津恵子、大手理絵、  
手島千景、高山亨、野原博子、大窪誠司、匿名

## \*自立援助ホーム「カルーナ」

横川幸治、平野富希、小泉小枝、  
横川宏美、竹之下雅代、船越克真、水野篤夫、小寺敬子、江川みゆき、井上悦子、  
日本聖公会京都教区婦人会、(公財)福岡YWCA、匿名

## \*あじさい保育園

安藤昌人、安藤いづみ、横川幸治、横川宏美

## \*賛助費

出店都、北村保子、中村信博、日月公子、榊田中工務店

## 9・10月/理事会報告

- アメリカの旅行社からの旅行者の訪問を受け入れる事業を開始。
- サマリア館補修クラウドファンディングが8/9付京都新聞に取り上げられ、9/1にKBS京都ラジオにも出演しました。
- 9/17:「子育ておはなし会」実施(臨床発達心理士 室紀子さんを迎えて)(次回は12/10)。
- 9/24:京都YWCAあじさい寮に新規入居の留学生にオリエンテーションと歓迎会実施。
- 9/28:京都YWCAあじさい保育園の多文化プログラムとして、中国(内モンゴル)出身のにほんご教室洛楽の受講生サンナさん

による中国文化紹介を実施(11月、1月にも予定)。

- 10/1:高齢者住宅「サラーム」の居住者交流会として「市電が走っていたころの京都の風景」を見る会実施。
- 10/8:第4回「京都YWCA100年の歴史を知るシリーズ」を実施(本誌3面掲載)。
- 10/15:「地球にやさしい人ともをつなぐプチマルシェ@京都YWCA」実施(本誌2面掲載)。
- 京都YWCAふれあいの居場所「うららかふえ」を有償で担う「委託」者を募集中。

KYOTO YWCA No.571 2022年11月号(11月1日発行)

発行人:上村愈巳子

発行所:公益財団法人京都YWCA

〒602-8019

京都市上京区室町通水上上ル近衛町44

電話:(075)431-0351

FAX:(075)431-0352

e-mail:office@kyoto.ywca.or.jp

HP:http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替:01080-9-1566

口座名義:(公財)京都YWCA

定価:1部50円

発行:奇数月1日発行